



トヨタネ株式会社 本社：豊橋市向草間町字北新切12-1 / 〒441-8517 / TEL0532-45-4137(代) / FAX0532-45-4494  
 社内報：第27号・発行所：総務部経営企画課・編集・構成：朝倉芳則  
 HP <http://www.toyotane.co.jp> Email: [info@toyotane.co.jp](mailto:info@toyotane.co.jp) 写真：下期勉強会(会場：THE HAMANAKO)

## ポスト50周年は新生トヨタネを目指す

お陰様で弊社は創立50周年、主要な行事もおおむね終了し、後は記念カタログ作成のみとなりました。忙しい時には、不思議と更に追い打ちをかけるような事態が発生するのは世の常でしょうか？

度重なる台風被害、塩害、異常高温で私共にとっての大切なお客様である農家の皆様も大変な被害を受けました。また同時期に会社歴史上最大の設備投資をした磐田ナーセリーが完成し、稼働の時期を迎えていました。各地区のお客様には精一杯の対応をしたつもりですが、非常に不十分、不満や段取りの悪さを指摘されることも多くありました。改めてお詫び申し上げるとともに、引き続き現場対応、復旧を第一に活動してまいります。



建設、土木現場で働く人の人手不足も年とともに危機的状況になりつつあります。そうした中で会社として未来の園芸農業、特に施設園芸に対してどのようなかじ取りをすれば、より社会に役立つことができるのか、本当に50周年をリセットしてゼロから組み立てなおす必要があると考えています。大規模化する施設園芸に対しては、より汎用性の高いAIによる制御、作業合理化ロボットの開発等が大きなテーマになるでしょう。

中小園芸農家に対しては、生産から物流、販売の差別化等様々な局面でアイデアが必要になると思います。また社内においては、国の働き方改革に伴う総労働時間の短縮化という課題に対して、労働生産性を下げずに、今まで以上にお客様に良いサービスを提供するにはどんな働き方や仕組み、働く人の意識改革が必要になるのか、しっかり再構築して考える必要があります。

弊社のようにお客様に会ってナンボのアナログビジネスを基本としている会社にとっては尚更です。国内園芸農業の大きなターニングポイントを迎えていると自覚し

ています。会社としても半世紀を総括、リセットし、新たな半世紀に向けてしっかり目を開いて、前を向いて進んでまいりたいと決意しています。引き続きのご支援を宜しくお願い申し上げます。

川西裕康

ています。

会社としても半世紀を総括、リセットし、新たな半世紀に向けてしっかり目を開いて、前を向いて進んでまいりたいと決意しています。引き続きのご支援を宜しくお願い申し上げます。



川西裕康

## 50周年記念展示会を終えて

去る11月21日・22日の2日間に渡りトヨタネ50周年記念展示会をホテルシーパレスリゾート室内コートをメイン会場とし農場展示として当社の研究農場を第2会場として開催しました。おかげさまで展示会見学日和となりメイン会場には約1500名、農場展示会場には約600名のお客様に来場していただきました。メイン会場は当社ブースで



「トリシードアグリ・プロジェクト」「環境改善」「省力化」「トヨタネー押し商品」をピックアップし展示と説明を行い、協賛頂いた出展企業様は7

1社に上り、『農業をここから動かそう』のテーマに沿った最新の商品と情報を提供頂きました。展示会に慣れない当社企画では有りましたが出展頂いた企業様の熱意も有り、来場されたお客様から「今後も定期的に開催してほしい！」などの有り難い言葉も頂きました。農場展示会場にも予想を上回る来場人数となりお客様の興味深さを知ることが出来ました。

今回の展示会を盛大に開催する事が出来たのも当社設



立時の4名の創立者の思いとそれを継承されてきた先人の方々、また応援頂いたメーカー各社の方々、何よりも当社を信頼し今まで付き合い合っている生産者・JA様のお陰と感謝の念で一杯となりました。今後も農業関係者の皆様に信頼と満足をして頂ける企業として進みたいと思います。

柵木浩樹

今後とも農業関係者の皆様に信頼と満足をして頂ける企業として進みたいと思います。

## 内定者

2019年春に入社予定の内定者13名が、11月22日(木)に



50周年展示会を見学しました。入社の前に商品や仕入先について少し知ることができ、良い機会になったと思います。「この商品はよく出るよ」と伝えると、

一生懸命商品名を口にして覚えようとする姿がありました。素直です。また採用チーム以外の社員に会えたことも良かったと思います。対応して下さった皆さん、ありがとうございました。内定者の感想を一部抜粋して掲載いたします。「たくさんの企業の展示があり驚きました。種、ハウス資材、肥料など、それぞれに特化した企業と付き合いがあり、これからそのたくさんの企業と関わっていくという実感がわきました。これからどの分野の企業の方とも話せるよう、学ばないといけないと思いました。」下期勉強会では自己紹介がありました。今後も内定者をよろしくお願いします。

伊藤さつき

## スマート農業の推進

次年度の予算請求や取組みを見ると、農水省としてスマート農業の推進に力を入れています。2025年までに全ての生産者がデータを元に農業ができるようにしていくという目標もあり、トヨタネとしても様々な機器が販売されています。



ただスマート農業という言葉は広がっているものの、商品としてはIoTやロボット、ドローンなど幅広い分野があるため、具体的事例の発表として、先日スマート農業推進フォーラムが名古屋が開催されました。その中でJA豊橋の養液栽培や環境制御の取組み発表と合わせて、トヨタネから環境制御機器開発の経緯を発表する機会をいただきました。

他の全ての発表にも共通する内容として、機器はあくまでもツールであり、作る技術はいろいろな所にあるものの、いかにその技術を使って目指す姿を実現するかが重要であることが発表の中で出ていました。現在の農業では目指す姿を模索しながら進めているため、現場の確認をしっかりと行い、どれだけ改善を素早く進められるかが、商品開発に最も必要なことになっています。

以上を進めていくためには、工業会だけでなく農業のことを理解している企業が、フォローしていく必要があります。そんな時に活躍できるように会社として異業種交流を当たり前に行えるような、柔軟な体質を作りたいと思います。

三浦慎一



## 公開調査とお礼

去る12月5日 本年度、初めての冬系キャベツ公開調査をおこないました。本年は、9月30日 台風24号を直撃に受けた東三河では、風害・塩害で多くの露地畑・施設園芸に被害がでました。当社農場でも被害はありましたが、何とか回復して公開調査を開催することができました。各28品種の中から代表5株の調査で、揃い・病気の発生・球重・大きさ・色などを調査して上位に選ばれた品種を次年度、産地に紹介して産地試験に入ります。種苗担当



者の品種を見極める目が大変重要になってきます。今回多くの得票を集めた品種はまだ番号の品種が多く今後の産地展開では十分期待できると思います。このように段階を踏まえて4~5年ぐらい試験栽培をおこない、産地で使用してもらえらる品種になっていきます。多くの生産者様に期待してもらいたいと思います。



さて、50周年展示会では農場展示会場として約600名のお客様に来場いただき露地作のキャベツ・ブロッコリー、施設栽培のトマト・パプリカ・キュウリ栽培、産直品目のプランター栽培など満足いただける展示が出来たのではないかと思います。継続して春先まで展示していきますので経過をみる事ができますので、引き続き研究農場を活用してください。

水谷雅祥

様に良い苗を提供するために、何をすべきか？」しっかりと考え、課員みんなで協力して努力してまいります。

内藤寛文

## 下期勉強会

### 安全運転勉強会で感じたこと。

当社の車両の殆どドライブレコーダーが搭載されている。映像および音声を記録するものである。ドライブレコーダー（Drive Recorder）は和製英語のようである。

英語ではダッシュカム（英：Dashcam）と呼ばれる。



良くも悪くも売れ筋商品。また取り付けて事故が減るというものではない。映像分析、行動分析、ブレーキング・・・

解析調査して傾向と対策を施せば減らせると思います。

#### 「横断歩道に対する意識」 歩行者 > < ドライバー

歩行者（誰しも）は横断歩道のあるなしに関係なく渡りたい。ルールはどうでも良い。ドライバーは横断歩道に立っていても止まりたくないし止まると追突される危険もある。早く目的地へ行きたい。この要因は歩行者の渡りたいという意思表示（ボディランゲージ）がされていない。また渡りたいという表現をあまり見かけたことがない。個人的には時間の無駄なので手を上げて渡りたい表現をしますが冷ややかな感じです。5～7台に1台くらいは止まる感じです。ドライバーの立場になると渡りたいから止まってという体全体で表現してくれると止まり易いです。人はテレパシー通信はできません念のため。また神対応などしてくれませんと返って危険です。あくまでも人の行動は動物的です。

#### 「徐行運転」

徐行の定義

道路交通法第二条：車両等が直ちに停止することができるような速度で進行することをいう。具体的な速度は示されていないのが現実。車の徐行運転は、10km/h以下で運転という説もありますが実際止まれるか疑問です。

#### 「不確かな方法」 ⇒ 「でき得る確かな方法とは」

徐行しながら ⇒ ブレーキングしながらアクセルを踏み込み注意しながら前進するこれが具体的方法。これはオートマ車では可能。一部車種では出来ない（アクセルペダルとブレーキペダルが右側配置の場合）。

#### 「24号台風で停電、信号機が！」

あの時いかがでしたか？

私の場合、24号台風通過後の通勤で家から出た途端、信号機が動いていない。一瞬考えて（シュミレーション）ひろい道路は返って渋滞する可能性が大。理由は安全と運転に自身のないドライバーが集中し易い傾向がある？狭い道はそれなりのドライバーという選択で道を変えま

## ナーセリー通信

### ～接木について～

磐田ナーセリーも本格的に稼働が始まって、より充実



した生産体制で苗のシーズンを迎えられるようになってきました。今回は、野菜苗の生産で重要な工程の一つである「接木」について説明させていただきます。

まず、接木の前工程あたる、一次育苗について。播種をしてから接木するまでの初期の育苗管理のことをさします。ここで接木しやすく、しっかりした強い苗にできているかどうかがとても重要となってきます。この時点での苗の状態の良し悪しでその後の苗の生育が決まると言ってもよいほど、非常に重要な工程です。栽培品目、生育ステージに合わせた、きめ細かい管理を行い、品質の高い苗を安定的に供給できるようにしています。



接木に関しては、接木スタッフが1本1本すばやく丁寧に手作業で接木していきます。穂木と台木、それぞれのサイズ、状態など細かな調整を行い、高い精度での成功率を目指し、均一な接木苗を安定生産していきます。

接木した苗は、すぐさま温度・湿度・明るさ等を制御した養生室に入れて管理していきます。この中で、接木によってストレスを受けた苗を回復させながら、維管束を徐々に活着させていきます。養生室を活用することによって、確実な接木の活着を実現しています。養生後は、ハウスに苗を移動し、順化管理を行います。順化工程では、温度・湿度・日照量等を調整し、徐々に通常ハウスの栽培環境に慣れさせていきます。

一言で「接木苗」といっても、季節や扱う品目によって、管理の仕方や注意すべきポイントはガラリと変わってきます。常に生産する「苗」のことを第一に、「お客

した。普段の半分の時間で到着。全て信号機は電源が落ちていました。数的には同数くらい。イメージ的にスクランブル交差点を渡る。またはラウンドアバウト走行です。考えてみるとベトナムや中国などの交通事情。信号機で交通ルールが守られている日本では想像が付きませんがこんな事態になると全く対応ができないのが実情。

### 「具体的改善」

環状交差点（ラウンドアバウト）を増やして信号交差点減らす。電気代もメンテナンスも減らせるので今後導入数を増やすほうが良いのでは。また今後AI利用による自動運転も普及すると考えると信号機は激減、またはより高度化（今のシステムの車を一端止めるのではなく）スムーズに交通を円滑化する仕組みへ可能性大？

### 「ハンプ」

お隣の韓国では一般的に導入されている。道路には大きな「らくだのこぶ加工」。これは感動しました。半端ない大きな隆起。せいぜい歩行者の歩く速度より遅い速度でないと渡れません。取締りなどルールやマナーも不要に近いと思います。韓国人は合理的なんでしょうね。

ウィキペディアを参照。



出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』ハンプ (hump) とは、道路の一部を隆起させ、通過する車両に上下の振動を及ぼすことで運転者に減速を促す構造物の総称である。機能や形状によって、

スピードバンプやスピードクッションなどとも称される。

同様の構造物は全世界で利用されており、その多くが時速40キロ以下の速度制限を遵守させるものである。災害の多い日本、電源を使わない仕組みと取り締まりを減らす仕組みなどハートより具体的な改善が必要ではと考えます。大渋滞や事故、電気に頼りすぎの面もあります。東北の津波でも。想定外というより想定内。最近感じたことコタツに入ってミカンを食べながら運転している感じ、ミカンスマホ・携帯操作、そんなイメージを受けます。方向指示器を出さない、曲がってから出している結構多い日常的光景。自転車もバイクも歩行者も法令順守じゃないこの状態で相手の安全も自分の安全も守るのは大変です。安全確保のために前後の車の動きやドライバー、人、自転車、バイクなどの動きを観察。一番人の動きが早く、次に自転車、バイクと続きます。自分の命は自分で守る。命から考える安全とは！

朝倉芳則

## 命をつなぐ

命を繋ぐ一本の電話。

実際のところカラダに異変が起きたときや瀕死の事故にあったとき携帯をかけることができるのか？

操作も気丈な人でも難しく思います。体の機能が失われて行く状態で電話ができるのか？生還できるのか？後遺症が残るのか？



一分でも早くが原則ですが現実には難しいです。また救急車がエアサス車ではなくこのような状態を考えると疑問が残ります。健康な人が考えると問題ないですが振動は脳や疾患のあるところへ直接負担が加わります。確かに高規格救急車あるようですが一般的に普及していないようです。農業者の方々がトラクターやブームスプレーヤ、コンバインなどなど農作業される時概ね一人でされる場合が多いのではと思います。緊急のとき多分会話も間々ならないと思います。トイレなどについている非常ボタンを携帯・スマホに取り付ければまた最近ではネット保険のコマercialでもお馴染みのボタン。非常ボタンをカラダにとしたいと思います。ただし運用する場合、不安な方、疾患のあるかた、年齢50歳以上などの条件を付けないとちょっとしたことでも安易にボタンを押す可能性があります。本来緊急性の高い人。生存率を高め、リハビリ期間も減らす。身近な人に起こると改めて考えさせられます。

朝倉芳則

## 下期勉強会開催される

2018年12月8日（土）浜松市内のTHE HAMANAKOで毎年開催されます。年3回全社員が一堂に集まるその年度の最後の会です。参加者は最近では九州から関東まで広がっています。



◎内定者紹介・内定者自己紹介12名（欠席1名）

内訳は男性7名、女性6名の13名です。自己紹介も卒なく行われました。



◎上期仮決算報告、経営体制について川西社長より仮決算報告、トリシードアグリ、経営体制について説明がありました。

◎執行役員から運営体制について経営体制強化のために具体的実施策について説明がありました。



◎報奨および優秀社員表彰

業績成果報奨、業績貢献報奨、優秀社員表彰として以下の各賞が授与されました。優秀社員表彰、努力賞、敢闘賞など。



◎終了後懇親を深める忘年会が開催されました。20代30代の社員が多く感じます。

他の業界関係者から若い年代の人が多いと言われます。宴は若い社員で盛り上がっていました。来年53期(5/1～)は新元号と同時にスタートします。新酒と年代物の酒の融合、フレッシュの未知なるものと古酒の味わいを活かしましょう。

朝倉芳則